

ジャパネット杯 平成27年度 第39回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

う

男子 女子 1 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 A コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名	
昭和学院	23	11	—	9	高岡向陵
		10	—	12	
		1	—	2	
		1	—	2	
		—	—	—	
		7mTC			

昭和学院のスローオフから開始。両者固さの見える立ち上がり。先制点は、高岡7番（松本）のサ

イドシュート。すかさず昭和3番（松浦）がサイドシュートで得点を返す。徐々に緊張が取れた昭和

昭和は多彩な攻撃で着々と加点し5対1。高岡は昭和の2-4DEFに速い攻めで立ち向かうが得点に

至らずペースをつかめないまま、試合は15分を経過し8対2で昭和のリード。20分経過時点まで

9対4で昭和のリードが続いたが、高岡はタイムアウトを取った後から、速攻が得点に結びつくよう

になり連続得点ができるようになる。11対9まで追い上げ前半を終えた。

後半開始から高岡⑬の連続得点で11対11。高岡⑦（松本）のサイドシュートで逆転し13対12。

一進一退の攻防が続く中、8分19秒、高岡⑧（木村）が退場するが、キーパーの好セーブもあり5人

何とか守り切り失点を1にとどめた。その後も一進一退の後部が続き19分30秒経過時点で15対14

で昭和がリード。激しい攻防はなお続き21対21のスコアで延長戦へ突入。延長戦は高岡が終始リー

ドを保ったまま25対23で勝利した。

2016年 3 月 24日

記載者氏名 正田 慎

ジャパネット杯 平成27年度 第39回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦評用紙

男子

男子・女子 1 回戦 ・準々決勝 ・準決勝 ・決勝

会場 神戸市立中央体育館 コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名																		
総社	22	<table border="1"> <tr><td>11</td><td>—</td><td>12</td></tr> <tr><td>11</td><td>—</td><td>11</td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7mTC</td><td></td><td></td></tr> </table>	11	—	12	11	—	11	—			—			—			7mTC			23	瓊浦
11	—	12																				
11	—	11																				
—																						
—																						
—																						
7mTC																						

1回戦、総社（岡山）対瓊浦（長崎）の対戦は、瓊浦のスローオフで始まった。立ち上がり35秒、瓊浦15番川添のシュートが決まり、先制した。その後、立て続けに瓊浦が得点。ペースをつかんだかと思われたが、総社もすかさず反撃。6分過ぎには3：3に追いついた。守りからの速攻、早いパス回しからのカットインなど、両チーム似たような試合運びで、その後取られたら取り返すといった状況がしばらく続いた。この間、瓊浦には2人の退場者が出たが、総社はそのチャンスを活かすことができず、終盤1点ずつ取り合っ、前半は12：11、瓊浦の1点リードで終了した。

後半は、瓊浦のパスミスや総社GKの好セーブなどもあり、10分過ぎまで総社ペースで進んだ。その後、総社が4点リードの時間帯もあったが、瓊浦も盛り返し、前半同様取っては取り返すという白熱したゲーム展開となった。終了間際、瓊浦4番のシュートが決まり、これが決勝点となり、劇的な幕切れとなった。結果、23：22という1点差で瓊浦が接戦をものにし、次へと駒を進めた。

平成 28年 3月 24日

記載者氏名 小川 健三

ジャパネット杯 平成27年度 第39回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

き

男子 1回戦

会場 神戸国際大学附属高等学校体育館

コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名																					
四日市工	27	<table border="1"> <tr><td>13</td><td>—</td><td>14</td></tr> <tr><td>14</td><td>—</td><td>18</td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7mTC</td><td></td><td></td></tr> </table>	13	—	14	14	—	18	—			—			—			—			7mTC			32	富岡
13	—	14																							
14	—	18																							
—																									
—																									
—																									
—																									
7mTC																									

富岡のスローオフで始まった試合は、四日市工業の井上によるミドルシュートが決まり、四日市工業が

先制する。その後両チームのキーパーによる好セーブ等で得点が伸びないが、四日市工業の3連続得点で

試合が動く。対する富岡も11分に7mスローを決めた後、得意の堅守速攻に持ち込むが四日市工業の激しい

バックチェックでなかなか点差が縮まらない。このまま四日市工業のペースかと思われたが、17分富岡の

効果的な牽制で四日市工業にミスが続き、速攻に持ち込んで同点まで追い上げる。その後、富岡の根岸が

身体を張ったシュートブロックを決めるなど固いディフェンスを見せ、ラスト12秒で富岡・大谷のシュー

トが決まり富岡1点リードで前半を折り返す。

後半、富岡のディフェンスが激しくコンタクトし、四日市工業は簡単にシュートが打てない。

富岡の体力が落ちることはなく、速攻で点差を広げる。11分で5点差まで引き離され、

四日市工業・千種監督はタイムアウトを取り作戦を立て直す。しかし富岡は素早いフットワークで終始

ディフェンスが固く、四日市工業は点差を縮めることができない。点差は縮まらず5点差で試合終了。

28年 3月 24日

記載者氏名 穂積 謙太郎